

# 鳥越デジカメ教室 『デジカメ初級』テキスト

2013年・ダイジェスト版

鳥越デジカメ教室では、毎月20～30ページほどの充実したテキストが配布されますが、それを読むだけでも写真の勉強になります。

その充実ぶりを紹介するために、毎月のテキストの表紙だけを集めた『ダイジェスト版』をご紹介します。これを眺めると、一年間どのようなことを学ぶのかが分かるようになっています。

ご覧になり、参加してみようと思われましたら、下記までご連絡ください。

**※ この冊子は複写厳禁、持ち出し厳禁です ※**



■お問い合わせ先：鳥越章夫 電子メール：[akio@tory.com](mailto:akio@tory.com)  
電話：050-5876-9615 FAX：020-4666-5061  
■ホームページは【鳥越章夫】と検索してください

# 鳥越章夫・デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

2013/04 テーマ：デジタルカメラの基本

### ■ もくじ

1. デジタル一眼カメラの特徴
  2. まずはオートで撮ってみよう
  3. 画像の再生と確認
  4. 画像のサイズと品質、ファイル形式の決定
- 付録1. カメラとレンズのお手入れ  
付録2. 画像ファイルの圧縮と解凍の方法  
付録3. インターネットでファイルを送信

### ■ はじめに

一昔前は一部のマニアの高尚な趣味であったカメラは、デジタルカメラとなったことで、女性を含めた一般の人々へ一気に普及しました。

その一方で、皆さん悩んでいませんか？ デジタルカメラを買ったのはいいけれど、イメージとちょっと違う、、もっと綺麗な写真を撮ってみたい。

入るのは易しいけれど、とても奥が深いデジタルカメラの世界。

この講習では、写真やカメラの初心者に向けて、デジタルカメラの仕組みを易しく解説し、楽しく作品づくりができる基礎作りをお手伝いいたします。



# 鳥越章夫・デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

2013/05 テーマ：ピントの合った写真を撮ろう

### ■ もくじ

1. ピント（フォーカス）って何だろう？
2. オートフォーカス（AF）の仕組みと設定方法
3. シャッター半押しとフォーカスロックをマスターしよう
4. マニュアルフォーカス（MF）への切り替え



### ■ はじめに

今回のテーマは「狙ったところにピントのしっかり合った写真を撮る」ことが目標です。

昔のカメラはシンプルでした。

ファインダーを覗いて、レンズのピントリングを回して、そこに映っている像がはっきりするところまで来たら止めて、シャッターを押せば良かったのです。

そのような手作業でのピント合わせをマニュアル・フォーカス（MF）と呼びます。

近年のカメラは便利になり、オート・フォーカス（AF）が主流になりました。シャッターボタンを押すとセンサーが働き、被写体までの距離を測って、モーターが駆動して、カメラが自動的にピントを合わせてくれます。

しかし風景写真のような広い被写体ならいいのですが、草花のクローズアップや望遠レンズで動物を狙う時などは、なかなか思い通りにはなりません。

今回の講習では複雑になる一方のオート・フォーカス機能を上手に使いこなし、また、被写体によってはマニュアル・フォーカスに切り替えて対処するなど、ピントを思い通りにコントロールする基礎を修得します。

# 鳥越章夫・デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

2013/06 テーマ：露出の仕組みを理解しよう！

### ■ もくじ

1. 露出って何だろう？
2. 露出を調整する3つの仕組み
3. 露出モードを理解しよう
4. 露出補正をして明るさを調節しよう



### ■ はじめに

今回のテーマは「露出の仕組みを知る」ということです。  
露出とは簡単に言えば写真の明るさのことです。

現代のカメラは被写体の明るさを自動的に計っておおむね平均的な露出（明るさ）にして写してくれます。

しかし時々「あれ？自分のイメージよりも写真が暗いな」「明るすぎるな」と思うことはありませんか？

最近の機械は優秀ですが、それでも完璧ではありません。  
そのような時は自分で露出を微調整してあげないといけません。

コントロールするためには、その仕組みを知る必要があります。

露出の仕組みを知って思い通りにコントロールできれば、写真が楽しくなるし、作品づくりの幅がぐっと広がることでしょう。

今回は露出をコントロールするためのレクチャーの第一弾。ぜひ頑張ってマスターしましょう！

# 鳥越章夫・デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

### 2013/07 テーマ：マニュアル露出に挑戦！

#### ■ もくじ

1. Mモード（マニュアル露出）って何ですか？
2. Mモードの初期設定
3. Mモードで明るさを変えてみよう
4. Mモードの長所と短所



#### ■ はじめに

先月の講習では「露出の仕組み」について学びました。  
現代のカメラは自動制御になっていて、内蔵されたコンピューターが被写体の明るさを計ってカメラに取り込む光の量を調整してくれます。

しかしカメラのコンピューターが判断した明るさが人間のイメージとは異なるケースがあるということも知りました。

それを修正するために「露出補正をする」ということも学びました。

今回の講習では露出を自分で思い通りにコントロールするための決め手になる、「**マニュアル露出**」(Mモード)にチャレンジしてみましよう。

マニュアル露出は自分の判断で絞り値とシャッター速度をカメラにセットしなければならないので上級者向けと言われていています。

しかし基本的な仕組みが分かれば案外むずかしくはないのです。そしてマスターできれば作品の明るさをイメージ通りに調整することができるようになり、作品の露出（明るさ）が安定してくることでしょう。

# 鳥越章夫・デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

2013/08 マニュアルフォーカスとマクロ撮影

### ■ もくじ

1. マニュアルフォーカス (MF) への切り替え
2. マニュアルフォーカスの使用例
3. マクロ撮影のテクニック

### ■ はじめに

以前の講習で『オートフォーカスの仕組み』について紹介しました。現代のカメラはセンサーが働いて、被写体に対して自動でピントを合わせてくれます。しかし時には思ったところにピントが合いません。そのような時には手作業でピントを合わせる『マニュアルフォーカス』を知っていると役に立ちます。

また、草花などのマクロ撮影（拡大撮影）は人気のジャンルですね。そのような時にもマニュアルフォーカスの使い方を知っているのと役に立ちます。





# 鳥越章夫・デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

2013/09 テーマ：絞りを変えると写真が変わる

### ■ もくじ

1. 絞りって何だろう？
2. 被写界深度ってなんだろう
3. 絞り値を変えて被写界深度をコントロールしよう
4. ぼかしの効いた写真を撮ろう



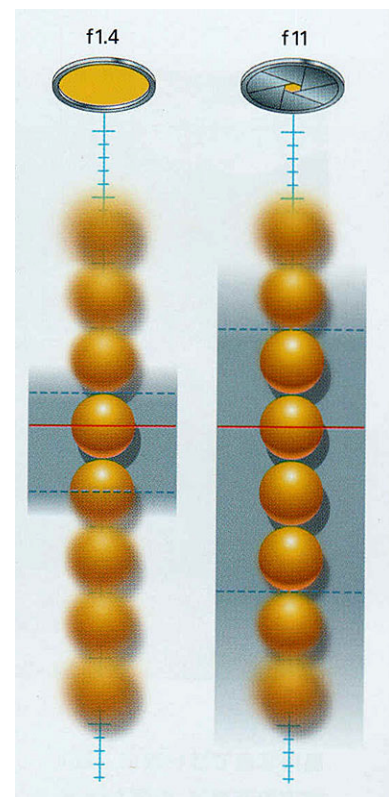
### ■ はじめに

「被写界深度」というと難しそうですが「ピントの合っているように見える範囲」と思ってください。

ピントの合っていない部分は「ピンボケ」ということになるのですが、主要な被写体のどこか一点にピントがしっかり合っていれば、そのボケはソフトな表現として活用できます。

今回の講習では「レンズの絞り値」を変化させて、ピントのしっかり合った風景写真を撮ったり、ボケの効いた花の写真を撮ったりするコントロール方法を学びましょう。

表現力がアップすること間違いなしですよ！

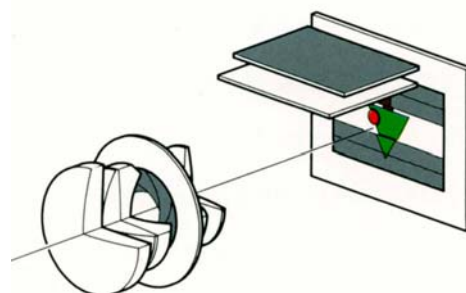


# 鳥越章夫・デジカメ教室 『デジカメ初級』テキスト

2013/10 テーマ：シャッター速度を変えてみよう

## ■ もくじ

1. シャッター速度って何だろう？
2. シャッター速度とブレの関係
3. シャッター速度を変えるには？
4. シャッター速度を変えて表現を楽しもう
5. 流し撮りに挑戦しよう



## ■ はじめに

露出の時間で、カメラの中では「絞り」と「シャッター」というものを制御して光の量をコントロールしていることを学びました。

今回は「絞り」についてその効果を勉強しましたが、今回は「シャッター速度」の値の違いによって画面の効果がどのように変化するかを見てみましょう。

絞りと同じく、シャッター速度を様々に変化させることによって表現の幅が一気に広がりますよ。

また、手ブレ、被写体ブレを防いだりするためにもシャッター速度を理解することはとても大切なのです。

また、シャッター速度を変化させた撮り方の応用例として「流し撮り」のテクニックもご紹介しましょう。





# 鳥越章夫・デジカメ教室 『デジカメ初級』テキスト

2013/11 テーマ：レンズを変えると写真が変わる

## ■ もくじ

1. レンズを変えると写真が変わる
2. レンズの基礎知識
3. レンズの種類と特徴
4. レンズ使いこなしのポイント



## ■ はじめに

一眼デジカメを初めて購入すると『標準ズーム』や『望遠ズーム』がキットで付いてくることが多いと思います。また、お店の人に勧められて『高倍率ズームレンズ』1本で撮影をしている人も多いと思います。

ただ目の前の風景を『切り取るだけ』の撮影方法なら、これらのレンズで十分間に合うと思いますが、しかし写真の楽しみ方はそれだけにとどまりません。

『明るい単焦点レンズ』『マクロレンズ』『超広角ズームレンズ』など個性のある交換レンズに目を向けてみてはいかがでしょうか？

特徴のあるレンズに交換して撮影するだけで、今まで見たこともないようなイメージが撮影できて、作品づくりが楽しくなることでしょう。

今回はレンズ交換の楽しみ方をアドバイスをさせていただきます。

『手っ取り早く美しい写真を撮りたい!』という方にはレンズ交換がオススメなのです！



# 鳥越章夫デジカメ教室 『デジカメ初級』テキスト

2013/12 テーマ：構図とアングルで写真が変わる

## ■ もくじ

1. フレーミング
2. 構図
3. アングルとポジショニング



## ■ はじめに

昔から写真の大切な要素は「ピント」「露出」「構図」と言われてきました。既にピントと露出については学びましたね。

そこで今回は「構図」と「アングル」について解説しましょう。

同じ場所で同じ被写体に接しても人によって出来上がる作品が異なるのは、ちょっとした構図やアングルの違いがあるからです。さらには被写体までの距離や、選択したレンズの画角なども影響してきます。

その微妙な違いについて、作例を交えて解説したいと思います。

ちょっとした構図やアングルの工夫で作品が見違えるようになりますよ！



# 鳥越デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

2014/01 テーマ：光を読んで作品づくりに生かそう

### ■ もくじ

- |                 |         |
|-----------------|---------|
| 1. 光の向きを意識しましょう | ・・・ 3P  |
| 2. 光の質を意識しましょう  | ・・・ 9P  |
| 3. 光のもたらす画面効果   | ・・・ 12P |
| 4. 補助ライティング     | ・・・ 14P |

### ■ 写真と光の関係

「写真」という日本語は「真（まこと）を写す」と書きます。

一方、英語で写真のことを“**Photograph**”と言い、これはギリシャ語の **photo**（光）+ **graphos**（描かれたもの）、の合成語と考えられ、戦前では日本でも「**光画**」と呼ばれていました。

「**光画**」という呼称は写真そのものの性質をよく表していると思います。物理的に「光」が存在しなければ目の前の光景を記録することはできないのですから（そもそも光が無ければ目の前の光景も存在し得ません）。「**光の性質**」を良く見ることは、「**美しい写真**」を撮るための第一歩と言えるでしょう。

今回はそんな光の扱い方について学んでみましょう。



# 鳥越章夫・デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

2014/02 テーマ：ヒストグラムの読み方

### ■ もくじ

1. ヒストグラムの仕組みと見方
2. ヒストグラムによる適正な画像の判断方法
3. ヒストグラムの応用例

### ■ はじめに

デジタルカメラのメリットは何と言ってもその場で画像を確認できることです。

しかし再生された画像ですが、周囲が快晴で明るすぎたりすると画像は暗めに見えますし、夜景撮影の時のように周囲が暗いと実際よりも明るく見えてしまいます。そのため画像を持ち帰って自宅のモニターで見ると現場で見たイメージと違ってしまうことがあることは皆さん既にご経験されていることでしょう。

そのような時、画像の露出を正確に判断する「ものさし」があると助かります。



たいていの一眼デジカメでは再生時に「ヒストグラム」というグラフを表示させることができます。デジカメを始めた頃の頃はこのグラフが何のためにあるのかさっぱり分からないと思いますが、その見方を正しく判断することができれば撮影時に周囲の環境に左右されることなく、露出を正しく判断する大きな手助けになります。

露出に自信が無いと、フィルムカメラ時代のようにブラケット撮影（露出ずらし撮影）をしている方を見かけることがありますが、このヒストグラムが読めるようになれば、その必要も無くなり効率が良くなりますよ。

# 鳥越章夫・デジカメ教室

## 『デジカメ初級』テキスト

2014/03 テーマ：ホワイトバランスって何だろう？

### ■ もくじ

1. ホワイトバランスって何だろう？
2. ホワイトバランスの選び方
3. ホワイトバランスで色遊びをしよう！
4. カスタムホワイトバランス（マニュアルホワイトバランス）の紹介

### ■ はじめに

デジカメ時代になって「ホワイトバランス」という単語を見かけるようになりました。

ホワイトバランスは「写真の色調」をコントロールするもので、本来は「カラーバランス」と呼ぶべきものかも知れません。

その考え方はフィルム時代からあり、その頃は「フィルター」を使って、色のコントロールをしていましたが、一般の方にはなじみがありませんでした。

デジタルカメラになって、それが本体の設定項目に内蔵されるようになり、一般の人でもホワイトバランスの選択や調整が可能になったのです。

今回は、ちょっと難しい(?)と思われるホワイトバランスについて、易しく丁寧に解説して、その使いこなしのコツをご紹介します。

「カスタムホワイトバランス」を行うとデジタル写真の色調を完璧にコントロールできるのですが、設定方法が難しいこともあり、今回は紹介のみにとどめて、中級への課題としたいと思います。

